

「最期にボーイ・ミーツ・ガール」

登場人物

片山 臨（かたやま のぞむ）

堂本 景（どうもと けい）

多田 恵那（おおた えな）

藤井 芙美（ふじい ふみ）

八木 涼音（やぎ すずね）

足立 つむぎ（あだち つむぎ）

※ 全員、同じ学校に通う高校二年生。

作・工藤
舞

舞台：〈川辺〉と〈教室〉の二つの場面が舞台上にある。その双方を分かつ境界（土手・校庭）を行き来する「足立」が、二つの場面を繋げている。

冬のはじめ。季節外れの生暖かい風が吹いている。濁って澱んだ川の岸辺にいる、片山臨と堂本景。冬用学生服を着崩して身に纏っている。閑散とした高校の教室にいる、藤井美美と多田恵那。暑さを感じつつも、既定の制服を規定通りに着ている。中央に、長距離走用のユニフォーム姿の足立つむぎ。頭にはハチマキ、肩にはタスキをかけ、さながら本番に臨む選手のような。

【0】スタート地点

川辺の土手の上。
軽く身体を動かしている足立。レース前の準備運動。
手首の時計を確認し、真剣な面持ちで正面を見据える。
スタンディングスタートの構え。

足立 …… 10秒前。位置について。

足立は走り出す。

【1】川辺の二人

川辺の橋のたもと。
川に向かって座っている、片山と堂本。
スマートフォンを見てはため息をつき、川に小石を投げ込む、という行動を繰り返している、片山。
片山の様子を少し離れたところから見ている、堂本。

堂本 ……そのうち、川が埋まるぞ。

片山 は？

堂本 やめろよ。

片山 そんなわけねーだろ。

堂本 マジで返すな。

片山 俺に、そんな力はないのだ。

特大の石を持ち上げ、川に投げ込む、片山。

水しぶきが跳ね、片山と堂本を濡らす。

堂本 おい！

片山 くっせ。

堂本 なにやってんだよ……

片山 正直すまん。

水しぶきを雑に拭う、片山と堂本。

片山 ……水、腐ってんなあ。

堂本 前はここまでじゃなかったよな。

片山 金魚の水槽の匂い。

堂本 ここまでなったら末期だろ。

片山 夏休み明けの学校の……

堂本 そういうのって普通、誰か持ち帰んねえ？

片山 いや、学校置きっぱ。

堂本 死ぬだろ。

片山
なあ。

堂本
いや……

片山
でも生きてたよ。先生とか世話してたのかな？

堂本
そういう係とかあったんだろ。

片山
そうなんかな、知らねーけど。

堂本
あってもお前には絶対任せないと思うわ。

片山
なんでだよ。

堂本
当番とか無視するだろ。

片山
……するなあ。

堂本
朝顔とかも、花咲かせたことなさそう。

片山
……ない。よくわかるな。

堂本
そういうの、全部やらんで遊び倒してるタイプ。

片山
んで最終日に焦ってなー。

堂本
目に浮かぶわ。

片山
絵日記まとめて書くのは、もうあるあるじゃん？

堂本
知らんけど。

片山
天気書く欄で詰むんだよ。

堂本
ネットで調べればよくね？

片山
……頭いい。

堂本
なんのためのスマホだ。

スマートフォンを一瞥し、ため息をつく、片山。
そんな片山を一瞥し、川向うへ視線を送る、堂本。

【2】教室の三人

高校の教室の中。

一つの机に向かい合って座る、藤井と多田。

お互いに漫画本（18禁BLコミック）を読み交わしつつ、含み笑いを漏らしている。そのとき、窓の外を落ちていく影。すぐに衝突音が響く。

多田と顔を見合わせた後、階下を覗き込む藤井。

藤井
うわ。

多田
今さら？

藤井
……カップルっぽい。

多田
心中？

藤井
多分……抱き合ってるし。

多田
わざわざ飛び降りなかったっていいのにねえ。

藤井
あ、野呂先生だ。

多田
まじ？

藤井
生徒と付き合ってるってホントだったんだ……

多田
ロリコンじゃん。

藤井
現実ではなしだわ……

多田
……おにシヨタはありかな。

藤井
は？ シヨタおに派なんだが？

多田
年下攻め好きねー。

藤井
業が深いもんで……

多田
（漫画本を見て）そんなんばっかじゃん。
藤井
だがそれがいい。

そこへ入って来る、八木。

学校指定のジャージを着崩し、レジ袋を片手にぶら下げ、もう一方の手には飲みかけの缶チューハイを持っている。

八木 あ、おはよ。

八木の登場に驚き、急いで漫画本を隠す、多田と藤井。

多田 ……おはよー。

八木 なあ、玄関壊したん？

多田 ううん、こちらは部室の窓から。

八木 ほんなら、まだどっかに誰かおるんかな……

藤井 (階下を指し) あの人たちじゃない。

八木 (階下を覗き) ……うわ、さっきの音あれかー。

多田 ……なに飲んでんの？

八木 ……ジュースみたいなものよ。

藤井 あ、お酒。

八木 でも3パーだから、度数。

藤井 いや、でも……

八木 別にいいやん。

多田 よくはないでしょ。

八木 なんでえ？

藤井 法律的に……

八木 今さら、サマツなモンダイやん。

多田 捕まるよー。

八木 誰に？

多田 ……それもそっか。

八木
ほうやろ。

手近の椅子を引きずって、多田と藤井の近くに座る八木。
レジ袋から乾き物の袋を取り出し、中身に一口かじりつく。

藤井
……浦ちゃん、来ないのかな。

多田
やっぱり避難するって。

藤井
そっか……

八木
約束しとったん？

多田
まあ、軽く。

八木
……どうなんかねえ。

多田
それもまた、選択だから。

八木
無駄と思うんやけど。

多田
まあねー。

藤井
……何も起きないかもしれないしね。

八木
あ、そっち？

藤井
別に期待してるわけじゃないけど……

多田
(八木の酒を指し)……誰にも、なんにも言われなかった？

八木
全然。みんなそれぞれどころじゃないんよ、きつと。

多田
たしかに。

八木
食う？

多田
ああ、ども。

八木
(乾き物の袋を藤井に差し出しながら)ん。

藤井
(拒否し)あ、私は……

八木
そう？ あ、甘いもんもあるよ。

レジ袋から菓子の箱を取り出す、八木。

多田　こんなに、どうしたの？

八木　学校で酒盛りしてみたくてさあ。

多田　どんな欲求……

八木　なんかよくね？

多田　ちよつといい。

八木　ほやろ？　あ、食って食って。

多田　じゃあ、遠慮なく……

菓子類に手を伸ばす、多田。

様子をうかがっている、藤井。

八木　こんなことでもなきや、絶対無理やん。

多田　そうだねー。

八木　藤井だっけ？

藤井　あ、うん。

八木　食ってよ。

藤井　どうも……

八木　でも、二人いて良かったわ。一人じゃ寂しいし。

多田　もしみんないたら？

八木　ないやろ。

多田　（笑って）ないやろけど。

八木　……一応、こっそりやる候補地もあったんよ。体育館の、ステージの上。

多田 全然こっそりじゃないじゃん！

八木 ちがくて、もっと上……天井裏。

多田 そんなところ入れるの？

八木 演劇部が照明変えたりするのに、部室から上がれるようになってんのよ。

多田 へえ、知らなかった。

八木 柴ちゃんとか、そこでサボったりしてたらしい。

多田 ああ、だからときどき消えてたんだ。

八木 でも暗いし、ネズミとかおるって……

多田 げえー。

八木 これ持って上るのも大変だし、ちょうど良かったわ。

多田 また、ずいぶん買ったねー。

八木 ほうよね。買いき……あ、飲まんけ？

顔を見合わせる、多田と藤井。

八木 無理にとは言わんけど……

多田 ……どうする？

藤井 どうするって……

八木 こういうの、強要するのダメなんよね？ アルハラ、やったっけ？

多田 法律無視するのに、ハラスメントは気にするんだ。

八木 法律よりモラルの方が大事やろ。

多田 どっちも大事だよ。

レジ袋から缶チューハイを取り出し、並べていく八木。

八木 弱いのもまだあるよ。甘いのも……

多田 ……じゃあ、これ。

藤井 多田。

多田 せっかくだし、いいじゃん。ちょっと飲んでみたいじゃん。

藤井 わかるけど……

八木 マジで、無理にとは言わんし。

多田 藤井だって、飲みたくないわけじゃないんだよ。

八木 ほうなん？

藤井 ……

八木 じゃ、何味が好き？

藤井 ……イチゴ？

八木 イチゴはねーなあ……

藤井 じゃ、ブドウ……

八木 普通の？ 白ブドウ？ 山ブドウもあるけど……

藤井 なんでブドウだけそんな需要が……普通の。

八木 (缶を手渡し) はい。

藤井 (受け取り) ……ありがとう。

缶を開ける、多田と藤井。

八木 乾杯。

多田 (藤井と同時に) かんぱい。

藤井 (多田と同時に) かんぱい。

グツと呷るように、缶チューハイを飲む、三人。

【3】川辺の二人

堂本 ……なんのためのスマホだ？

片山 現状、ただの重しですね。

堂本 かなし。

片山 ……電波切れた？

堂本 現実逃避すんな。

片山 ……

堂本 ……その金魚、どうしたん？

片山 ……ん、小六の時の？

堂本 それは知らんけど。

片山 元気なんじゃね？

堂本 まだ生きてんの？

片山 最終的にフナくらいのデカさになってさ。

堂本 マジ？

片山 (手で40cmほどの大きさを示し) こんなん。

堂本 確か！ もう鯉じゃん。

片山 結局水槽じゃ飼えなくなって、流したよ。この川。

堂本 え……

片山 生きてっかなー。

堂本 さすがに、もう無理だろ……

川に棒切れを差し込んで、かき回す片山。

堂本 ……やめるよ、くせえって。
片山 おーい、生きてるかー。
堂本 ……もう五、六年？
片山 金魚捨ててから？
堂本 捨てたって言っちゃった。
片山 (指折り数えて) うん、そんなくらい。
堂本 ……生きてたら、又シだな。
片山 さらにデカくなったりして。
堂本 魚って、生きてる限りデカくなり続けるらしい。
片山 マジ？ じゃあもう、一メートルくらいに…
堂本 それはもう、金魚ではないな。
片山 ……中国かどっかの、巨大魚。
堂本 ああ……大量に跳ねまわってるヤツ？
片山 動画で見たことあんじゃん。あれ…
堂本 なんだっけ、ソウギョ？
片山 そう！ それってこと？
堂本 ……金魚だったんだろ？
片山 うん。
堂本 じゃあ金魚だよ。
片山 え？
堂本 金魚って別に、出世魚じゃねーから。
片山 ……そもそも、金魚ってなに？
堂本 は？
片山 もともと金魚って種類の魚？
堂本 そうだろ。

片山 でも池とか川とかで見なくなね？

堂本 それは……多分、なんかを品種改良したやつだから？

片山 なんかって。

堂本 知らねーよ。

片山 景でも知らんのか。

堂本 金魚にそこまで興味もったことないんで。

片山 まあ、そうか。

堂本 自分で調べろ。

片山 別に、興味ない。

堂本 今までの話、なんだったん？

片山 ……その時は、もうちょっとキレイだったんだけどなあ。

堂本 流れもこんなに悪くなかったしな。

片山 てか、ほぼ止まってね？

堂本 ……あ、お前、あれ知ってる？ ポロロッカって。

片山 は？

堂本 ポロロッカ現象。

片山 なに、知らね。

堂本 川が逆流すんだって。アマゾンかどっかで。引力？ とかが原因らしい。

片山 へえ、そういうのがあんの……あ。

空を見上げる、片山と堂本。

片山 ……あれか？

堂本 かも、って思ってる。

足立の足音が近づいてくる。

後ろを振り向く、堂本。

肩にかけてタスキを手に取り、そのまま走り去っていく、足立。

堂本
……頑張ってるわ。

片山
足立？

足立の去った方を目で追う、片山。

片山
……すげーよな、毎日。

堂本
飽きねーのかな。

片山
なんか、挑戦してんじゃねえの？

堂本
記録とか？

片山
自分の限界とか。

堂本
……超えてどうなる？

片山
どうもしないけどさ。

堂本
無駄なことしてるとしか思えねーんだよな。

片山
お前、足立のこと嫌いだよな……

堂本
別に、好きも嫌いもないけど。

片山
……本当のところ、足立がどうか知らねーけどさ。

スマートフォンを一瞥する、片山。

片山
……でも俺は、ちよっとわかるよ。

片山は再び川に小石を投げる。

堂本 ……金魚に当たるぞ。

片山 カーメイン？

堂本 なにそれ、名前？

片山 そう。カーメイン三世。

堂本 かっこよ。

片山 そんな色だったからさ。俺がつけた。

堂本 三世どこから来た。三代目？

片山 適当。カッコいいと思って。

堂本 センス。

片山 最後は投票で、紗栄子とかも俺の案を選んだわけ。

堂本 ……お前が昔、好きだった？

片山 俺だけじゃねーよ、みんな。

堂本 なに、小学生の頃から好きだったん？

片山 小五から中二まで。

堂本 なっが…お前、一途だよな。

片山 叶ったためしはねーんだけど。

堂本 どんまい。

片山 お前だって似たようなもんだろ。

堂本 ……アイツ、子ども産んだって知ってた？

片山 は？ ……え、紗栄子？

堂本 こういふ状況になって、すぐくらいに妊娠して。

片山 マジで!?

堂本 春先だったかな、産んだって。

片山 あえて？
堂本 多分。
片山 ……え、相手は？
堂本 さあ、聞いてない。
片山 マジで……
堂本 ……なんかゴメン。
片山 いや……いいけど……
堂本 今はもう、関係ないじゃん？
片山 でも、なんかちよっと凹むわ……
堂本 そういうもんかね。

しゃがみ込む片山。言葉にならない声を呟いている。
その様子を横目で見る、堂本。

堂本 ……産んでどうすんだろうな。
片山 ……産みたかったんだろ。
堂本 無駄じゃん。
片山 なんでも無駄、無駄って……
堂本 今さらだろ？
片山 そういうことじゃねーだろ。
堂本 不幸な子どもを一人増やしただけじゃん。
片山 わかんねーだろ、決めつけんなよ。
堂本 結局、親のエゴでしょ。
片山 ……そうかもしれないけど。
堂本 罪だよな。

堂本 予想では。

片山 なにができたよ……

堂本 ……俺は、このままでいいんだけどさ。

片山 ……

堂本 お前はまだ、出来ることもあるだろ。

片山 ……

スマートフォンを操作する、片山。

片山を煽っておきながら、堂本はその顔を直視することができない。

【4】教室の三人

車座になって宴会している、藤井、多田、八木。

陽気に笑いながら、缶チューハイを飲み、菓子類をつまんでいる。

藤井 あっつい……

八木 マジで。

多田 脱げば？

藤井 脱ぎたいけど……

多田 あ、てかさ……

制服のスカートを折って、短くする多田。

多田 ……どーよ。

八木 いいやん。

多田 よくね？

藤井　　いいよ。

多田　私、足キレイじゃね？

藤井　キレイ、キレイ。

八木　自分で言うなし。

多田　もっと出してけば良かったな……

多田はくるりと回って、スカートを翻らせる。

八木　パンツ見えてんですけど！

多田　ヤダー！

藤井　慣れないことするからー。

多田　……サービス。

スカートの裾をめくり、下着を見せつける多田。
吹き出して笑う藤井と八木。

藤井　　いらない、いらない！

八木　　なんの価値があんだよ。

多田　　女子高生のパンツだぞ!?

八木　　うちらもそうなんだよ！

多田　　不思議だよね、こんな布に興奮するとか……

八木　　しまえって！

藤井　　（笑いながら）サイテー！

八木　　（笑いながら）くそ酔っ払い。

多田　　お酒サイコー。ちよー楽しい。

八木 ヤベエやつに飲ませてしまった……

多田 オメーらも脱げよー。

藤井 ヤだよ。

多田 なんて。

藤井 足、出したくないもん。

多田 出してこーぜ、足ー。

藤井 いやー。

多田 藤井ー。

八木 おい、オッサン。

多田 オメーに至っては、なんでジャージ？

八木 楽やん。

多田 うるせえ、エセ関西人！

八木 あ？

藤井 多田。

多田 やる気あんのか、って聞いてんだよ！

藤井 なに、やる気って。

八木 めんどくせー、こいつ。

多田 せっかく、若いんだからさー……

机に顔を伏せる、多田。

藤井 大丈夫ー？

多田 今日までなんだから……

八木 ……

多田 さらけ出してこーぜ……

藤井
……

そのまま、寝息を立て始める、多田。

藤井
……オータ。多田？

八木
……寝た？

藤井
たぶん……多田！

八木
いーよ、いーよ。

藤井
うん……

八木
……コイツ、一人だけ寝逃げしやがって。

藤井
……なんか多田がゴメンね。変なこと言ってる。

八木
……ああ、方言？

藤井
そっちの人？

八木
出身は北陸なんだけど。

藤井
あ、そうなの？

八木
向こうも結構、こんな感じなんよね。中学のとき引っ越してきたんだけど、この方が楽で。

藤井
お笑い好きなのかと思ってる。

八木
嫌いじゃないけどね。

打ち解け合っていない者同士が話題を探す、独特の間。

藤井
……なんか、飲み慣れてるよね。

八木
まあ……初めてではない。

藤井
日常的にでしょ。

八木
否定はしません。

藤井 やっぱり。

八木 藤井も強いやん。

藤井 そうみたい。

八木 飲んだことないん？

藤井 ないねー。

八木 真面目えー。

藤井 ……ばあちゃんが漬けてる梅酒、舐めたことならある。

八木 そんな飲酒のうちに入らんし。

藤井 (缶チューハイを飲み干し) ……そんなこと言ったら、八木さんだって真面目だからね。

八木 あ、そう？

藤井 最後の日だって言うのに、わざわざ学校来てるんすよ？ しかもわざわざ、指定ジャージ着てるんすよ？

八木 酔ってる？

藤井 酔ってない！ 酔ってないが……

八木 酔ってるヤツ、みんなそう言うんだよな……

缶チューハイを呷る、藤井。しかし、中身はカラ。缶を振って中身を出そうとするも、出ない。

八木 おかわりあるよ。

藤井 (音を立てて缶を置き) ……そんな自分が、嫌なんすよ。

八木 どうしたんすか。

藤井 真面目で、面白くないでしょ。

八木 いやいや、それは過小評価ってやつですわ。

藤井 え、そう？

八木 いま、すげー面白いもん。

藤井 (照れ笑い) ……はじめて言われたあ。

八木 今まで知らなかった。

藤井 ……あんま喋ったことないもんね。

八木 ほうね。多田とは、クラスでは結構喋る方なんやけど。

藤井 あ、私も辻さんとは喋ったことある。

八木 ……なんで辻？

藤井 え、よく一緒にいたよね。

八木 あー……学校の中だけよ。

藤井 そうなの？ 仲良いのかと……

八木 ラインとかも知らんし。

藤井 ……陽キャって、けっこうドライなんだね。

八木 (笑って) 陽キャって、うちが？

藤井 ……そんな八木さんが、なんで学校来たんすか。

八木 は？ だから……

藤井 いや……なんで、学校が良かったのか、ってこと。

八木 ……なんでやろ？

藤井 ……

八木 藤井たちは？

藤井 私たちは……ぶっちゃけ、行くところなくて。

八木 ああ……まあね。

藤井 外もいろいろ、危ないし。そこまでして行きたいとこ、あるわけじゃないし。

八木 シェルターは？

藤井 ……どうなんだろうね、あれ。

八木 あんま意味ないと思うけどね。

藤井 うん……

八木 直撃したら結局ダメって言うやん。逆に、もし助かってても大変そうやし……

藤井 ……うちは、母親が反シエルでね。
八木 あー、ナントカ教の……
藤井 朝からなんか唱えてたよ。マジ、キモいよね。
八木 まだマシな方やろ。
藤井 多田んとこは3%に期待してるんだって。
八木 (チューハイの空き缶を持って) おんなじやね。
藤井 (自嘲気味に) 酔えない酒と同じくらい、薄い……
八木 上手いこと言う。
藤井 ……だから、消去法？
八木 うちも同じようなもんよ。行きたいところも、会いたい人も……別に、おらんし。
藤井 ……家族は？
八木 (不機嫌に) さあ。
藤井 地元の友達とか。
八木 ……ある意味、会いたいやつらおっせき。こういうことなっすぐ、地元行ったんよ。
藤井 うん。
八木 (笑って) ほしたら、みんな死んどった。
藤井 ……
八木 恨みは買うもんじゃないな。そういうやつらだったから、驚きもせんかったけど。
藤井 ……そっかあ。
八木 おかげでやり損なったわ。
藤井 ……
八木 そっからは後悔しないように、やりたいことはやるようにしとるんよ。
藤井 ……いいと思う。
八木 ……藤井は、もう後悔ない？
藤井 (長考し) うーん……

八木 ……とりあえず、今日学校来たのは良かったやん。
藤井 え？
八木 不真面目なんがいいんやろ？ 学校で酒飲むとか。
藤井 ……たしかに、陽キャっぽいかも。
八木 それは知らんけど。
藤井 私もついに日の目を……
八木 なに、今まで陰やったん？
藤井 陰も陰でしょ。
八木 そういふ風に見たことないし。
藤井 こんなクソオタク……
八木 別にいいやん、毎日楽しそうだし。
藤井 ……たしかに。毎日、楽しかった。
八木 それが一番。陰とか陽とか、関係ないって。
藤井 ……そうかな。
八木 ほうやろ。
藤井 ……もう一本、もらおうかな。
八木 ……どぞ。
藤井 (缶チューハイを見ながら) ……これ、なに？
八木 (缶を手渡し) 梅干し。
藤井 ……美味しいの？
八木 ……うちは好きだよ。
藤井 え……
藤井 ……

疑いながら缶を開堂本、恐る恐る口を付ける、藤井。

藤井 ……ホントだ。
八木 美味いっしょ？
藤井 うん。あ、かんぱい。
八木 はいはい。
藤井 ……コンビニ、やってんだね。
八木 やってるとこは、やってんじゃね？
藤井 うちの近く、もう結構前から閉まってさ……
八木 どこ住みやっけ？
藤井 駅西……西中の辺り。
八木 ああ、街なかだから……田舎の方が、まだやっとなるよ。
藤井 山の手の方とか？
八木 とか、河辺の方とか。
藤井 あんまそっち行かないからなー。
八木 人多いところは荒らされやすいんやろね。
藤井 前よりは落ち着いたと思うけど。
八木 うちらみたいな、真面目な人間がやっとなるんやろ。
藤井 (笑って) 八木さん、真面目じゃないじゃん。
八木 さっきは真面目って言ったやん。
藤井 お酒飲む高校生は真面目じゃないですー、不良ですー。
八木 不良って、久々に聞いたわ。
藤井 (笑いながら) ……じゃあ、真面目なものいいかあ。
八木 はい？
藤井 まじめにふまじめ……
八木 なんやっけ、それ。
藤井 かいけつゾロリ……

八木 ……なんで急に？

藤井 イシシとノシシは、どっちがどっち？

八木 は？

藤井 むしろゾロリ総受け……

八木 藤井ー？

藤井 ああ……誰か、解決してくれないかなー。

空を見上げる、藤井。つられて見上げる、八木。

藤井 あれ、さー……

八木 ああ……

眩しげに、忌々しげに、目を細める藤井と八木。

その時、校庭を足立が駆けていく。

途中で肩のタスキを取り、手首の時計を確認した後、再びタスキを肩にかける足立。そのまま走り去っていく。足立を見送る、藤井と八木。

【5】川辺の二人

ふと笑い声をあげる、堂本。

スマートフォンから顔を上げる、片山。

片山 ……なに？

堂本 (川向うを顎で指し) あれ、あのカップル。

片山 ああ……お前、目良いよな。

堂本 このくらいの距離なら見えるだろ。

片山 俺、けっこう厳しいわ。

堂本 男の方、わかる？

片山 右？

堂本 そうそう。なんか、いきなり脱いでさ。

片山 ……着てんじゃん。

堂本 今はな。さっきの話。

片山 全裸？

堂本 靴と靴下は履いてたかも。

片山 いっそうヤベーな。

堂本 そしたら、女の方も脱いでさ……

川向うを凝視する、片山。

堂本 今は着てるよ？

片山 なんだよ！

堂本 だから、さっきの話だって。

片山 全裸？

堂本 女の方は全裸。

片山 いさぎよ……

堂本 普通、お互い脱いだら、あとはもう、やることは一つしかなくね？

片山 ……なんでまた着てんだよ。

堂本 (笑って) それよ。

片山 ……変態のカップルなん？

堂本 さあ……でも距離感とか微妙なんだよな。妙に遠い。

片山 付き合いたてとか？

堂本　そもそも付き合ってたんのか……
片山　付き合ってたかったら脱がねーだろ。
堂本　……露出狂同士がたまたま出会ったのかも。
片山　（笑って）そんな偶然あるわけねーだろ。
堂本　（笑って）最悪の奇跡。

しばらく川向うの様子を観察する、二人。

堂本　……出来たん？
片山　あ、まだ。

再び、スマートフォンに視線を落とす、堂本。

【6】教室の二人（＋寝ている一人）

八木　……足立以外、走るの辞めたんやって。
藤井　駅伝の人たち？
八木　そう。あ、足立知っとる？
藤井　表彰とかされてたし。毎日走ってるし。
八木　いま一人で全員分走ってるらしい。
藤井　え、つら。
八木　頑張るよな！。
藤井　あ、あのタスキ取ったりつけたりとかって……
八木　本当はあのタイミングで繋ぐらしい。
藤井　せつな！。

八木 なあ。

藤井 みんなの思いを引き継いでるんだね……

八木 別にそれはどうでもいいって。

藤井 (笑って) なんだそれ。

八木 辞める理由ないから、ってさ。

藤井 そっか……そっか？

八木 うちは、ちよつといいと思ったよ。

藤井 ……もう、別の競技だよな。

八木 ほうやね、マラソン？

藤井 何キロ走るのかな。

八木 でも、それでめっちゃ速くなったじゃん。

藤井 うん。

八木 速すぎて、もう襲われないらしい。

藤井 ……どゆこと？

八木 変質者とかよく出るやん。

藤井 ああ、おチンチンまろび出てる系の……

八木 言い方。

藤井 チンコ？

八木 そこじゃねーよ。

藤井 大橋のところによくいるらしいよ。交番ある方。

八木 よく捕まんねーな。

藤井 とつくに機能してないもん。しかも、女だって。

八木 え、ヤバ。

藤井 噂だよ。私も直接見たことはないんだけど。

八木 オッサンの方が圧倒的に多いしな。

藤井 ……露出って、なんの意味があるんだろうね？
八木 興奮するんやない？
藤井 見せるだけで？
八木 見せて、その反応とかで……
藤井 でもそういう人のって、大抵そんなに大きくないじゃん。……実物って大体あんなもん？
八木 知らんし。
藤井 (手で大きさを示し) こんくらい。
八木 まじまじと見てんなよ。
藤井 見せてきてんだもん、見ちゃうよ！
八木 そんな珍しいもんでもないやろ。
藤井 いや？
八木 え？
藤井 実物見たのは、露出狂のが初めて。むしろ露出狂以外の、見たことない。
八木 ……チンコ？
藤井 チンコ。
八木 ……父親のとか。
藤井 うち、お風呂上り裸のまま、とかないし。
八木 家単位で真面目なんだ。
藤井 そうなるのか……
八木 ……彼氏のは？
藤井 いたことないんで。
八木 あ、はい。
藤井 ……
八木 ……
藤井 ゴメンで。
藤井 漫画の絵なら、腐るほど見てますけどね。

八木 そっちのが見なくね？

藤井 そう？

八木 そういうの読んだ。

藤井 描いたりもする。

八木 えっ。

藤井 あ、でも絵は（多田を指し）こっちで、私は文字書きなんだけど。

八木 ……なんの話？

藤井 え？

八木 そういう、エロ本？ が、あんの？

藤井 うん。……って言っても、男同士の。

八木 あー……

隠していた漫画本を取り出し、八木に見せる藤井。

藤井 （流暢に）Boys Love.

八木 （漫画本を手に取り）はいはい。

藤井 ……そういうの、平気？

八木 え、別に……

藤井 そっか。

八木 うん。

藤井 ……なんか勝手に、そういうの偏見あるんだろーなって思ってたよ。

八木 特にないよ。

藤井 そっか……

八木 （漫画本を開きながら）うん。

藤井 ……嫌なやつだ。

八木 え？

藤井 嫌なやつだ、私は……

八木 今度、落ち込むんかい。

藤井 ごめん……

八木 いいよ、楽しいよ、私は。

藤井 偏見ありそう、っていう偏見を持っている、自分……

八木 (笑いをこらえ) うん。

藤井 イベントも出れない、本も出せない、そんな自分……

落ち込み、どんどん俯いていく藤井。

八木はそれを意に介さず、漫画本をめくる。

八木 本とか自分で作れんだねー。

藤井 ああ……うん、同人誌だけど。

八木 そうというのがあんのか。

藤井 (漫画本を指し) それは違うよ、商業誌。

八木 しょうぎょうし。

藤井 「同人誌即売会」って言って、自分たちで作った本を売るイベントがあんのね。

八木 コミケ、ってやつ？

藤井 その地の元版みたいな、小さいの。……出たかったなー。

八木 なんて出なかつたん。

藤井 なんだろ、ホントに……オタバレ怖くて、お客さんでも行けなくてさー……

八木 そうなん。

藤井 ……せめて、一冊だけでも、書けば良かった。

八木 ……

藤井 ……(ため息)

八木 ……いま、書けば？

藤井 えー？

八木 あと……一時間くらい。

藤井 そんなの無理だよー。

八木 うち、買うし。

藤井 (笑って) 高いよー？

八木 いいよ、もう持っても意味ないし。

藤井 ……いや、待って。

八木 でも読む時間あるし、できれば45分くらいで……

藤井 本気で言ってる？

八木 うん。

藤井 ……

八木 書きなよ。

藤井 ……パソコンもないし。

八木 紙とペンならあるやろ。

藤井 でも……

八木 書きたいんやろ。

藤井 ……

八木 書いた方が良いつて。

藤井 ……

八木 ……最期なんだし。

藤井 ……

見つめ合う、藤井と八木。

八木は、頷いて見せる。

藤井はノートとペンを取り出し、書きはじめる。

【7】川辺の二人

大きくため息をつき、顔を上げる、片山。

堂本 お、書けた？

片山 うん。

堂本 スマホ生きてて良かったよな。ネットも。

片山 そうな。

堂本 この状態でまだ使えるって、奇跡だよな……

もうAーとかが管理してんのかな？ それとも、よっぽど現実逃避してるヤツらで回してんのか……めっちゃ社畜とか、ブラ

ックって可能性もあるか。

……そうな。

堂本 で、返事来た？

片山 あー、いや……まだ。

堂本 マジか。既読は？

片山 いや……

堂本 ……は？ お前……

片山 ちがうんだって。

堂本 これだけ長いことやって、まだ送ってねーの？

片山 ……はい。

堂本 どんだけだよ……

片山 景。

堂本 あ、嫌です。

片山

まだなんも言っただけえ。

堂本

なんか面倒くさいこと頼む気だろ。

片山

なあ、頼むよ。

堂本

嫌だつて。

片山

変なところないかどうかだけでいいから、ちょっと見て……

堂本

お断りします。

片山

お願いします！

堂本

必死かよ。

片山

俺、嫌われたくないから！

堂本

……

片山

(スマートフォンを差し出し) ……おねがい。

堂本

そういうのさ、こっちまで恥ずかしくなんじゃん。

片山

俺の方が恥ずかしい。

堂本

それは仕方ねーだろ。

片山

その恥を忍んで！

堂本

じゃあ見せんよ。

片山

いいから、チェックして。

渋々、スマートフォンを受け取る、堂本。

スマートフォンを覗き込む二人。

片山

間違っただけよ。

堂本

はいはい。えー、「おはよう、今日も隕石が……」

片山

声に出すな。黙読しろ。

堂本

注文多いな……

タスキを手にして駆け抜けていく足立。
気にも留めず、メッセージと向き合っている二人。

片山 ……どうすか。

堂本 ……重くね？

片山 え、そう？

堂本 なげーし…

片山 長い方がいいじゃん。

堂本 それは俺と価値観違うわ。

片山 ……短い方がいいかな。

堂本 てか、それ以前の話なんだけど。

片山 なに？

堂本 告白の、これ…

片山 ……そうなんすよ。

堂本 既読無視で…

片山 これってやっぱり、脈無い？

堂本 うーん…

片山 追撃はマズい？

堂本 ……

片山 ねえ、やめといた方が良くない？

堂本 ……なんとも。

片山 ……(ため息)

再度、川に小石を投げ込みはじめる、片山。

自棄になったか、いくつも連続で投げる。

片山 ……わかってんの、ホントは。無理だって。

堂本 んん……

片山 でもさ、最期じゃん？ 最期にこう、せめて……

堂本 うん。

片山 ……（ため息）

堂本 ……そいつの、どこがいいの。

片山 え？ いいじゃん。

堂本 そーかあ？

片山 地味な感じだけどさ、なんか、楽しそうだし。こうなってからも、毎日楽しそうにしてるし。現実見てないだけじゃね。

片山 ……だとしても、それって地味にすごいことだと思うわけ、俺は。

堂本 ……まあ、いいよ。

片山 見てたらこっちまで楽しくなるってか……気が楽になる？ 癒される？ 感じ、あるじゃん。

堂本 さあ。

片山 足とかも、地味にキレイだし。

堂本 お前、脚フェチだったの？

片山 ちげーし。

堂本 あ、たしかに紗栄子も……

片山 ちがうから。

堂本 別にいいじゃん。

片山 好きなヤツが、たまたまそうだってだけ。

堂本 あ、そ。

しばし、沈黙。

ふと、怪訝な表情を浮かべる、堂本。
堂本の視線を辿り、対岸を見る片山。

片山 ……チューしてない？

堂本 ……してる。

片山 (ため息) いいなあ……クソが。

カップルの邪魔をせんと試み、小石を遠投する片山。

堂本 ……お前は、どうなりたいの。

片山 あ？

堂本 付き合いたいんか。

片山 まあ、はい。

堂本 あと一時間もないのに、付き合っただって……ああ、そうか。
片山 なんだよ。

堂本 ヤリたいうってことね。

片山 いやっ……

堂本 え、やりたくねーの？

片山 いや、それは、あわよくば……

堂本 (鼻で笑う)

片山 俺だって、健康な男子高校生ですし？ 好きな子と付き合い合えたら、したいじゃん。
堂本 じゃあ別に、こんなまどろっこしいことする必要なくね。

片山 他に良い方法ある？

堂本 和姦じゃなくなたって、襲っちゃえばいいじゃん。

片山 ……お前、なに言ってるの？
堂本 良い子ぶんなって……

片山のスマートフォンを操作する、堂本。

【8】教室の二人（＋寝ている一人）

一心不乱にノートに小説を書き綴っている藤井。

八木は缶チューハイを飲みながら、漫画本を読んでいる。

八木 （独り言で）……え、これ18禁？

藤井 ……ん？ そうだよ。

八木 けっこうハードっすね。

藤井 それ特に、無理やり系だから。ハッピーエンドなんだけど。

八木 ファンタジーだねえ……

藤井 ね。そんなこと、実際はありえないんだけどさ……

藤井は執筆に、八木は読書に戻る。

【9】川辺の二人

堂本からスマートフォンを奪い返す、片山。

片山 なにやってんの!?

堂本 ……とりあえず、今どこにいるか聞いといたから。

片山 は!?

堂本 返事来たら行けよ。

片山 俺、書いてたやつは？

堂本 消した。

片山 はあ!?

堂本 あんな長文、ある脈も消えるわ。

片山 ……脈ある？

堂本 さあ…でも、別に関係ないだろ。やれば。

片山 そういうことじゃねーんだって！

堂本 じゃあどうということだよ。

片山 だから、それだけじゃなくて…

堂本 そんなヤツら、いっぱいいただろ。

片山 一緒にすんなよ。

堂本 後悔するより、よくね。

片山 よくねーよ！

堂本 ……

片山 ……そんなことしたら、その方が、後悔するわ。

堂本 ……

片山 俺は、そんな風には、死にたくない…

堂本 ……俺もだよ。

今度は堂本が、川に石を投げる。

その石は水面を跳ねて、川の半ばで沈む。

石の行方を目で追う、片山と堂本。

【10】教室の三人

机に突っ伏して眠る多田の腕の下で、スマートフォンが激しく鳴る。

藤井 うわ！
八木 ……びっくりしたー…
藤井 なに……？

音の出どころを探る、藤井と八木。
通知音は鳴り続けている。

藤井 (多田のスマートフォンを見つけ) あ、これ。
八木 ああ……音デカ。
藤井 オータ、多田！
八木 なが……
藤井 多田って！
八木 これで起きないの、すごいわ。
多田 (大きく伸びをしながら) うーん……うるさ。
八木 オメーのスマホだよ。
多田 あ……

多田がスマートフォンを操作し、音が鳴りやむ。
再び机に伏せて眠る多田。

八木 え、いいの？ ちょっと、多田……

八木は多田を起こそうとその肩を叩いている。
その手をうるさそうに振り払う多田。

【11】川辺の二人

投げた石の行方を追って、川を見ている片山と堂本。

片山 ……けっこう、いったな。

堂本 ……襲うかどうかは置いて、直接会った方がいいだろ。

片山 襲わねーよ！

堂本 会えれば、の話だけど。

片山 ……

堂本 最期に直接フラれるってのも、笑えるな。

片山 おい。

堂本 (裏声で)「ごめんなさい」、(爆発のフリ) チュドーン！

片山 俺で楽しむな。

堂本 会えれば、の話だけど。

片山 ……まあな。

堂本 ……多分、大丈夫だよ。

再び、川に石を投げる、堂本。

その石は川面を跳ねず、すぐに沈んでしまう。

【12】教室の三人

多田を揺さぶっている八木。

多田はゆっくりと身体を起こす。

八木 多田！

多田 ……なに。
八木 いいのかって、スマホ。
多田 えー……？

寝ぼけ眼でスマートフォンの画面を確認する多田。

多田 ……え!?

八木 なに。

藤井 大丈夫？

八木 誰から？

多田 いや……大丈夫、なんでもない。

八木 電話じゃないの。

多田 普通に、メッセージ。

八木 それであんな、長く鳴るってことある？

スマートフォンを机に伏せ、頭を抱える多田。

八木 どした。

多田 ……頭、痛い……

藤井 ああ、お酒で？

多田 これが、二日酔い……

八木 そこまで飲んでないやろ。

多田 気持ち悪……

八木 ああ、水、水……

レジ袋から水を取り出す八木。多田に渡す。
水を飲み、気分を落ち着ける多田。

【13】川辺の二人

片山 ……なあ、お前って、なんかやっておきたいこと、ある？

堂本 ……別に。

片山 会いたい人とか。

堂本 お前以外に？

片山 (笑って) 最期、俺でいいのかよ。

堂本 (笑い返し) ……別に、いねーよ。

片山 親とか…

堂本 ……(舌打ち)

片山 ……すまん。

堂本 ……お前んちは。

片山 うちは、あえていつも通り過ごそうって…

堂本 いいよな、お前んところ。

片山 そうかな。

堂本 羨ましいよ。

話題を振り切るように、川に石を投げる堂本。

石は二、三度跳ねて、沈む。

堂本 ……普段好き勝手やってるくせに、こういう時だけ親ヅラしやがって。

片山 ……大丈夫か？

堂本 (笑って) 大丈夫、大丈夫……黙らしてきたから。

片山 そうか。

堂本 ああ……

片山 ……じゃあ、もうちょっと一緒にいてくんね。

堂本 え？

片山 キモー。

堂本 いや、自分で言うなし。

片山 キモいけどさ。

堂本 ……いいよ。

片山 ……このまま、返事なくて……最期、お前と一緒にってのも、いいかもな。

堂本 ……

片山 ……キモ。

堂本 そうだな。

片山 ん？

堂本 ……いや。

片山 うん。

正反対の願いを思いながらも、同じように空を見上げる、片山と堂本。

【14】教室の三人

立ち上がり、窓を開ける多田。外の空気を感じ、深呼吸。

八木 大丈夫け？

多田 多分……

自身のスカート丈の異常に気が付く、多田。

多田 ……スカート短っ!?

八木 今かい。

藤井 覚えてないの。

多田 まったく……

八木 ヤバ。

席に戻りながら、スカートを翻らせる多田。

多田 ……けっこう良くない?

八木 それ、さっきやった。

多田 え?

八木 マジで記憶って飛ぶんやな。

多田は席に着き、スマートフォンを手で弄ぶ。

多田 ……藤井は、なにやってんの?
書いてる。

多田 (八木に) ……なに読んでんの!?

八木 (漫画本をかざし) 借りとる。

多田 そんな見せびらかすもんじゃないよ……

藤井 最期だし、一冊書いて死のうってことになって。

八木 出来たら、うち買うんだわ。

多田 なんで? どゆこと?

藤井 多田も挿絵描いてよ。KさんとNさんの……

多田 ……それかー。

八木 だれ？

藤井 作品のモデルさん……っていうのかな。一応、私たちって一次創作なんだけどね。

八木 ん？

藤井 ああ……同人って、一次創作と二次創作とあって、一次はいわゆる、オリジナル。私たちが一から自分で考えた作品ってこと。

対して、二次創作っていうのは、漫画とかアニメとか、何かしらの原作があって、そこからカップリングとか妄想して書いた

作品のことを言うのね？

八木 待って、わからん……

藤井 あ、ごめん。

八木 ……とにかく、藤井たちはオリジナルでやってる、ってことね。すごいやん。

藤井 いやいや、そんな……

八木 ……え、じゃあモデルってどゆこと？

藤井 見た目とか、雰囲気とかだけ。なんかめっちゃいい感じの人たちだから、参考に。彼らで妄想してるってわけでは、ないんで

すけど……

八木 実在の人物なん？

藤井 うん、でも、外見のモデルなだけで、中身は私たちのオリジナルだから！

彼ら自身のカラミを妄想してるわけじゃなくて、私たちの妄想人形に、彼らの皮をお借りしてるだけっていう……

間。

八木 ……で、誰なん？

藤井 いや、それは……

八木 うちも知っとる？

藤井 まあ……

八木 え、だれ、だれ？
藤井 ……オフレコでお願いしますよ。

八木に耳打ちする、藤井。

八木 ……あー。

藤井 秘密ですよ！

八木 でも…：わかるよ。

藤井 わかります!?

八木 クラス違うのに、しょっちゅう一緒におるもんな。

藤井 それな!!

八木 声デカ…：…

藤井 ゴメン、興奮して…：…よだれ出た。

八木 怖いわ。

藤井 私たちの最推しなんだ。

八木 またわかんない言葉が。

藤井 最も推してる…：…

八木 最期にいらん知識が増えてくー！

藤井 いらんことないでしょー！

多田 いらんと思うよ。

藤井 あ、多田、とりあえずバックハグ一枚絵で…：…

多田 ……どっちがどっちで？

藤井 Kくん攻めで。

多田 あー…：…

藤井 いい？ いける？

多田 ……大丈夫。
藤井 じゃ、よろしく。

ノートとペンを取り出し、机に広げる、多田。
しかし描きはじめることなく、ペンを弄んでいるだけ。

八木 K……って、伏せてもあんま意味ねーな。

多田 たしかに。

八木 ……アイツ、マジでゲイだって。

多田 え。

藤井 え!?

八木 あ、オフレコで……

藤井 え、え、待って。

八木 落ち着けよ。

藤井 ……なんで、知ってんの？

八木 あー……

八木を見つめる、藤井と多田。

言いくそうちに、声を出さずに口を動かす、八木。
短い逡巡の後、口を開く。

八木 ……好きだったんよ、Kのこと。

藤井 えっ……八木さんが？

八木 まあ、あっさりフラれたんやけど。

藤井 あー……

八木 理由聞いたら、そうやって。

藤井 ……なんて言いますか。

八木 フるための口実かもしれないけどな。

藤井 ……そういうことで嘘つく人じゃ、ないんじゃない。

八木 ……そう、だよなあ……

かける言葉を探し、顔を見合わせる、藤井と多田。

大きくため息をつく、八木。

多田 ……聞いちゃって、良かった？

八木 いや……言っちゃダメだよなあ。

藤井 私たちは、誰にも言わないよ。

多田 うん、もう言えないし……

八木 ……カッコわりー！

藤井 格好悪いってことないでしょ。

八木 ……フラれたからって、こういうこと言う女にはなりたくなかった。

藤井 言いたくもなるんじゃないの？

八木 くそ、言っちゃったな……

藤井 ……そんな男のことなんて、どうでもいいじゃん！

八木 ……

藤井 ……まだ、好きなんだ。

八木 ……（無言で頷く）

藤井 そっかあ……

八木 自分でもアホやと思うけど。

藤井 そんなことないよ。

八木 (呻くように) ああ……
藤井 ……恋だねえ。
八木 ……なんだよ。
藤井 羨ましいなーって。
八木 フラレとるんやよ。
藤井 私はそういうものないから……
八木 そうなん。
藤井 うん。皆無。
八木 ……恋愛したいん？
藤井 まあ……多分？
八木 なんだそれ。
藤井 してみたかったなー、って感じ。
八木 良いだけじゃねーぞ。
藤井 わかるけど、「知ってる」と「知らない」とじゃ違うでしょ。
八木 ……うちは知りたくなかったけどな。
藤井 って言っても、好きな人もいないし……ただの憧れ。
八木 彼氏だけじゃなく、好きな人も？
藤井 いたこともないねー。
八木 それはちよっと、珍しい。
藤井 ……来世に期待しよ。
八木 今生はもう終わるしな。
藤井 ……人類滅亡しても、来世ってあんのかな？
八木 さあ……
藤井 ……まあ、いいや。

再びノートに向き直り、書き進める藤井。

藤井 ……そんな話聞いたら、捗るわ。
八木 そら良かった。

窓の外に視線を送る、八木。そこには走る足立の姿。手にしたタスキを肩にかけ直し、手首の時計を確認しながら、スピードを上げていく。

八木 (足立に) ……がんばれー！

藤井 え、待って。

八木 捗るんじゃないんかい。

藤井 Kくんがゲイってことは、じゃあノゾ、Nくんも……

多田 それは違うんじゃない。

藤井 なんです。

多田 あ、いや……わかんないけど……

八木 KはNのこと好きそうだけどな。

藤井 え、待って。尊……

多田 ……そうなのかな……

八木 なに、どしたん。

多田 いや？ なんでも……

藤井 ……ちょっと、全然描いてないじゃん。

多田 ごめん。

藤井 やっぱK攻めダメ？

多田 そういうわけじゃないんだけど……

藤井 Nくんメインでもいいよ？

多田 いや、それは……

八木 ……多田はNが好きなん？

多田 いやっ……

藤井 推しなんだよね。

多田 ……

藤井 私はカップリング推しなんだけどね。

八木 ……その「推し」と「好き」って、どう違うん？

戸惑い、顔を見合わせる、多田と藤井。

藤井 ……わかんない。言語化ムズ……

八木 概念的な？

藤井 そうとも言える。

多田 うん……

藤井 (考えながら) 人によって違うと思うけど……しいて言えば、恋愛感情の有無？

八木 ……好きは好きなんやる？

藤井 そうなんだけど、ライクとラブは違うじゃん。

八木 「推し」はライクってことか。

藤井 それもちよっと違うんよ……尊い、大事にしたい、守りたい、その笑顔……って感じ？

八木 ……対子ども、とか、対ペット、にある気持ち？

藤井 もうちよっとゲスな気持ちはある。誰かとくっつけて妄想したりするし。

八木 ムズ。

藤井 でも、「推し」と自分がどうこう、特に性的に……とかは、あんまり考えたことないかな。そういう意味で、恋愛感情がない、って感じ。

八木 エロースじゃないわけだ。

藤井 そう、どっちかって言うのアガペー。……選択、倫理？

八木 ほうよ。美術と倫理と、一緒やろ。

藤井 気付いてなかった。

八木 どんだけ興味ないんよ。

藤井 内職してて……（ノートを指し）こういうの。

八木 （笑って）もともと不真面目やん。

藤井 ……あくまでも、私の場合は、だけど。

八木 多田は？

多田 え。

藤井 多田は、Nくんのこと、どう思ってるの。

多田 どうって……

スマートフォンを気にする、多田。

多田 ……そういうこと、ちゃんと考えたこと、なくて……

なにも言わず、視線で先を促す、藤井と八木。

多田 好き……好きだけど、彼とどうこう……付き合いたいとか、そういうことを思ってたわけじゃなくて……

見るだけで幸せっていうか……同じ空間にいるだけで、なんか、嬉しいし。

藤井 わかる……存在に感謝するレベル。

八木 信仰の対象なん？

藤井 ある意味。

八木 こわ。

多田 でも、同時に嫌でもある……

藤井 え？

多田 変なところ見せないように、緊張しちゃうって言うか……

藤井 ……それはわからん。

八木 人によるんやね。

藤井 それはそうなのよ。

多田 ……そして、性欲わかないって言ったら、それは嘘になる。

八木 (笑って) そうなん。

多田 うん。余裕でわく……

藤井 そうなんだ……

多田 やっぱり、違うよね？

藤井 いや、正解とかないから。

八木 ……でも、それってさ。

多田 うん。

八木 恋なんじゃないの。

間。

多田 (絶望して) ……やっぱり？

八木 なんやの、それ。

多田 なんかうすす、そうかもって……

八木 じゃあそうだよ。

藤井 なに、嫌なの？

多田 嫌だよ。

藤井・八木 (同時に) なんで。

多田 だって！ ……どうせ、死んじまうのに。俺たち、みんな。

藤井 ……ばかやろう。最期だからこそだろうが。

多田 ……

藤井 最期だからこそ、俺たちは、後悔しないよう生きるべきなんじゃないのか？

八木 ……それ、なんかのネタ？

藤井 違うか!?

多田 でも…

八木 それでフラれたら、ショックだもんなあ。

藤井 あっ…

八木 経験者は語る。

藤井 ゴメン。

多田 それは、大丈夫だと思っただけ…

ちらりとスマートフォンに視線を送る、多田。

八木はそれを見逃さない。

八木 ……さっきから、ずいぶん気にしとるやん。

多田 あ、いや…

八木 なんかあったん？

多田 なんもないよ。

八木 (スマホを指し) 見してみ。

多田 いや…

八木 告ったん？

多田 いや、私は…

八木 告られたんか!

藤井 えっ…

八木 見してみ。

多田 ……

八木 いーから、早く！

多田 ……

渋々、八木にスマートフォンを渡す、多田。

【15】川辺の二人

石を投げ合ううちに、水切りの回数を競うようになった、堂本と片山。

堂本 あ、ダメだ！

片山 はい、ざこー。

石を投げる、片山。

跳ねた回数を目線で数える二人だが、差異が生まれる。

片山 13！

堂本 いや12だろ。

片山 13 いったって！

堂本 12。

足立の足音が聞こえ、あつという間に駆け抜けていく。

肩にタスキをかけ、最後の力を振り絞るかのように、ハイスピードで走っている、足立。去り際、堂本と片山を一瞥する。

足立と目が合う、二人。

片山 ……俺ら、ここでこんなことしてていいんだろうか。
堂本 そんなこと言うなよ。

片山 だってなんか、アイツは頑張ってるのに…

堂本 ……だから、ああいう意識高い系のヤツ嫌いなんだよな。

片山 足立ってそっち系か？ アイツけっこうバカだぞ。

堂本 だから「系」なんだって。本当に意識高いヤツはああやって見せつけてこない。

片山 そこまで考えてるかな。

堂本 どうせ全部無駄なのに、バカみてえ。

片山 お前は、また…

投げやりに石を飛ばす、堂本。

その石が思った以上に水面を跳ねていく。

堂本 えっ。

片山 すご…

石は、向こう岸まで到達する。

ハイタッチして喜び合う、堂本と片山。

片山 すげえ！

堂本 新記録！

片山 なにが良かったん？

堂本 わかんね、角度？

片山 石は？ どんなん？

堂本 けっこう重めかも。あんま丸すぎなくて……

石を探す、堂本と片山。

記録を更新すべく、さらに石を投げ合う二人。

【16】教室の三人

多田のスマートフォンを覗き込む、藤井と八木。

多田は恥ずかしそうに顔を覆っている。

八木 ……多田、片山のこと好きなんよね？

藤井 ……両想いってこと？

八木 なんて返信してねーの!?

藤井 ねえ、両想いってこと!?

八木 追撃きとるやん。まず返事しろって。

多田 だって……なんて……

八木 「私も好きです」とか、書いといたらいいやん!

多田 でも……

八木 (スマホを操作しながら) グダグダ言うなって……

多田 だって、好きですって、付き合ってたって、無駄じゃん。

八木 無駄じゃねーよ。

多田 だって、もう、なんもできないじゃん!

間。

多田 ……付き合ったら、したいこと、いっぱいあったよ。

学校の帰りにデートしたり、一緒に勉強したり……手繋いだり、キスしたり……したかったよ。
……もう全部、出来ないのに……会って、両想いで、付き合っても、辛いだけじゃん。
……だから、私はもういいの。会わなくて……会わない方が、いいの。
最期に、このラインだけ、良い思い出にとっておいて、逝くよ。

なにも言えず、ただ多田を見つめる、藤井と八木。

【17】川辺の二人

片山のスマートフォンから、通知音。
しかし確認しようとしな、片山。

堂本 ……おい、鳴ってんぞ。

片山 いいじゃん、もう一回……

堂本 返事、来たんじゃないの？

片山 いや、もう……

堂本 早く見ろよ。

片山 ……

手にした石を乱暴に川に投げ込み、緩慢にスマートフォンを取り出す、片山。

片山 どーせ、親とか……

息を呑む、片山。

堂本 ……どした。

片山 ……返事、来た。いま学校、つて……
堂本 そうか。
片山 どうしよ……

戸惑いながら嬉しさを覗かせる、片山。
堂本は、その顔を直視できない。

【18】教室の三人

俯き、無言を貫いている多田。

多田にかける言葉を探している、藤井。

八木 ……この、自己中女が。
藤井 八木さん……
八木 じゃ、コイツはどうなるんよ。告った臨の気持ちは。

顔を上げた多田に、何度も頷いて見せる、藤井。

八木 返事なくて、会えなくて……フラれたと思って死んでくんだぞ。

多田 ……

八木 ホントは違うのに。お前も好きなのに。

多田 ……

藤井 ……そーだよ。

多田 ……

藤井 Nくん、可哀想だよ。

多田 ……

八木 ……最期くらい、喜ばせてやれよ。

多田 ……

八木 それは、多田にしかできんのよ。

才多田 ……でも…

八木 ……会いたくないわけじゃないんやろ？

多田 ……(頷く)

藤井 多田…

突然、激しく鳴る、多田のスマートフォン。

藤井 うわ！

八木 ……びっくりしたー…

手に持ったスマートフォンを操作する、八木。
通知音が鳴りやむ。

【19】川辺の二人

片山のスマートフォンから、通知音。

片山 あえっ…

堂本 なんだよ。

片山 俺ら、いま、どこ…

堂本 川だろ。大橋の…

片山 (スマートフォンを操作しながら) ああ…

堂本 (嫌そうに) ……来んの？

片山 えっ、そうなの？

堂本 いや、知らんけど。

片山 ……え、どうしよう。

堂本 ……行った方がいいんじゃないね。

片山 え……

堂本 変なヤツらも、たまにうろついでるし。

片山 あ、そっか。そうだよな。

堂本 学校までの道いけば、どっかで会うだろ。

片山 あー、だな……

ウロウロと歩き回る片山。立ったりしゃがんだり、落ち着かない。

【20】教室の三人

自身のスマートフォンを操作する八木に気付く、多田。

多田 ……待って、それ私の！

八木 うん。

多田 (スマホを奪い返し) なにやってんの！

八木 アイツ、いま川だってよ。

多田 あ、返信！

八木 とりあえず会った方がいいと思って。

多田 なんで勝手に……

八木 時間なくなるし。

多田 (睨んで) ……

八木 いいやろ、別に……どんどん過ぎてくで！

多田の視線を、悪びれもせず受け流す、八木。
そして舞台は、一時交錯する。

【21】川辺の二人＋教室の三人

堂本 ……早く行けよ。
多田 ……行くよ、行ってきます。
片山 ……フラれるのかな。
八木 大丈夫やって。
堂本 あとちよつとの時間、わざわざづるために使うやつなんていないだろ。
多田 ……うん。
八木 ちゃんと、直接、言っといで。
片山 ……だよな。
藤井 もし会えなかったら……
堂本 大丈夫。
八木 信じろ。
片山 ……ああ。
藤井 ……行くんだね。
堂本 ……俺は、ここにいるから。
多田 ありがとう。
片山 ごめんな。
多田 本、一緒に書けなくて……
堂本 いいよ。

ひし、と抱き合う、多田と藤井。
土手を駆けあがっていく、片山。

片山 ……景。

堂本 ん。

片山 ありがとうな。

堂本 ……ん。

片山 またな！

走って去っていく、片山。

堂本 また、って……

自嘲気味に、独り、空を見上げる堂本。

堂本 ……もう、来ねーよ。

ゆっくりと、その場で横たわる堂本。何も見えないよう、腕で顔を覆い隠す。

多田 ……今まで、ありがとう。楽しかったよ。

藤井 私も……

多田 もし、万が一、奇跡的に助かったら……

藤井 うん。

多田 そのときは、コミケ出よう。

藤井 うん。

多田 絶対。
藤井 絶対ね。
多田 ……行ってくる。

走り去っていく、多田。

その姿を見送り、今まで書いていたノートを破り捨てる、藤井。細かく切り裂いて、窓の外にまき散らす。舞う、紙吹雪。

八木 ……藤井。

藤井 ……あーあ。

八木 ……ごめんな。

藤井 ううん。いいの。

八木 ……

藤井 ……友情より、男だよね。

新しく、ノートに文章を書いていく、藤井。

藤井 ……あと何分？

八木 え……

藤井 アイツらのこと書いてやろうと思って。

八木 ……いいやん。

藤井 (時間を確認し) 30分あれば、キスくらいできるよね？

八木 セックスもできるだろ。

藤井 まじ？

八木 いける、いける。高校生やし。

藤井 ……じゃ、書く。そこまで書いてやる。

八木 すげーな。

藤井 なにが。

八木 いや……

藤井 ……別にいいけど。

八木 うん。

机に向き直り、一心不乱にペンを走らせる、藤井。

八木 ……楽しみやわ。

窓の外には、巨大な隕石が迫っている。

【22】走る二人

走っている、片山。

時折、道の悪さに足を取られながらも、学校に向かって、懸命に走り続けている。上着などを脱ぎ捨てながら、がむしゃらに走る。

走っている、多田。

時折、残った酒の影響で嘔吐しながらも、川に向かって、懸命に足を進めている。よろめき、ふらつきながら、なんとか走る。

【23】川辺の二人

走り終え、想像上のゴールテープを切る、足立。

手首の時計を止め、土手の斜面に倒れ込む。肩や胸で、荒く息をしている。足立の気配に、うっとうしそうに寝返りを打つ、堂本。

足立 ……びっくり。まだいた。

堂本
……

歩いたり、ストレッチしたりしながら、呼吸を整えていく足立。

堂本
……（舌打ち）

足立
ごめんねー。

足立に背を向け、無視する堂本。
意に介さず、自身のケアを続ける、足立。

【24】教室の二人

八木
……もう会えたかな、アイツら。

藤井
……さあ……

八木
いいなあ……なあ？

八木を無視する、藤井。

八木
……多田、けっこう酔ってたよな。

藤井
……

八木
走って大丈夫かな……

藤井
……

八木
吐いてたりして。

藤井
……

八木
ゲロ臭かったら、やだよなあ……

藤井 (顔を上げ) 集中してるんで。
八木 …… スイマセン。

肩をすくめる、八木。酒を飲みながら、独り言ちる。

八木 …… なんで、人は人を好きになるんやろな。

藤井 ……

八木 これ以上、繁栄なんかしようもないのに、なんで繋がってたいとか思ってしまうんやろ……
応えず、藤井は深く集中していく。

【25】出会った二人

学校と、川の間道路路上。

道端で吐いている多田。

そこへたどり着く、片山。

片山 …… 多田さん？

多田 (顔を上げ) あ……

片山 大丈夫!?

多田に近づこうとする片山。

それを手で制する、多田。

多田 …… ごめん。

片山 (絶望して) え……

多田 私、いま、臭いから……
片山 ああ……そんな……
多田 もうちよつと離れて……
片山 あ、ごめん……

間。

多田・片山 (同時に) ……あの。
多田 あ……
片山 ごめん……
多田 ううん、どうぞ……
片山 いや、多田さん……
多田 あ、私は……
片山 俺は、ほら、返事……
多田 返事……
片山 あ。
多田 ……あの。

そのとき、空から爆発音。

それぞれの場所で、反応を見せる一同。

驚き、空を見上げる多田と片山。

反射的に多田に駆け寄り、庇うようにして抱きしめる片山。

身体を起こして、空を見上げる堂本。

一瞬、空を見上げたものの、ストレッチを続ける足立。

書くことに集中するあまり、音に気付かない藤井。

立ち上がって空を見上げ、音の正体を探る八木。

【26】川辺の二人

堂本 ……そのストレッチとか、意味あんの？

足立 やんないと、筋肉とか心臓とかに悪いんだよ。

堂本 今やる意味あるかって聞いてんの。

足立 だから、走ってすぐやんないと……

堂本 どうせもうすぐ死ぬのに、やる必要あんのかって！

足立 ……ああ、そっち？

堂本 今の、聞こえてなかったのかよ。

足立 でも、死なないかもしれないじゃん？

堂本 はあ？

足立 もしかしたら、奇跡的に助かるかもしれないじゃん。

堂本 ……本物のバカだな。

足立 うちはバカだけど、頭のいい人たちが頑張ってるっていうじゃん。希望は捨てちゃいけないよ。

堂本 ……むなくないの。

足立 なんて。

堂本 変に期待して、ダメだったら、余計辛いだろ。

足立 ダメだったときは死ぬときだよ。辛いも何もないでしょ。

堂本 ……は？

足立 きつとそんなの感じる間もなく死んじゃうよ。即死、即死。

堂本 ……

足立 ……だったら、「どうせ死ぬし」とか言って、なんでもかんでも諦めるより、希望持ったまま、プラスな感じていた方が、得じゃない？ もし死ぬことになっても、落ち込んだまま逝くよりは全然いいと思うんだけど。

堂本
足立
堂本
足立
堂本
足立

おー、きもちー。
どーも。
臨くんは？
走っていったよ。
多田のところ？
だから、なんでわかんの？

堂本に背を向ける、足立。
腑に落ちないながらも、堂本はその肩を揉む。

足立
堂本
足立
堂本
足立
堂本

…肩でも揉もうか。
えー？
大丈夫。俺、ゲイだから。
知ってる、知ってる。
なんでだよ。
見ればわかるよ。じゃ、お願いします。

足立
堂本
足立
堂本
足立
堂本

…お前、すごいな。
ちがう？
いや、うん…なんかゴメンな。
なにか。
足立なりに、論理があっただんな。
よくわかんないけど、うん。

ストレッチを終え、足をマッサージする、足立。

足立　じゃあ、せつないね。
堂本　うるせーな……

部位を変えながら、マッサージを続ける、堂本と足立。

【27】教室の二人

八木　……なんだったん？　いまの……

藤井　……できた。

八木　え？

藤井　（ノートを掲げ）　出来ました。

八木　おお。

藤井　出来たよー！

八木　おつかれ。

藤井　できた……

八木　すげーじゃん。

満身創痍といった体の藤井。拍手で労う、八木。
そしてノートを手に取る。

八木　……見ていい？

藤井　……うん。

ノートを開く、八木。

【28】抱き合う二人

多田 ……待って。

片山 いやだ。

多田 私、臭いから……

片山 それでもいい。

多田 片山くん。

片山 どんな匂いでも、好きだ。

片山は多田の肩に手を添え、その目を見据える。

片山 俺は、多田さんが、好きです。

多田 ……

片山 俺と付き合ってください。

多田 ……

片山 (頭を下げ) お願いします！

多田 ……はい。

片山 ……え。

多田 ……私も、臨くんのが、好きです。

片山 ……！

多田 ずっと前から、好きでした。

片山 ホントに……？

多田 ……もっと前に、言えば良かった。

片山 ……俺も。

多田 (照れて笑って) もう、ちょっとしかないけど……よろしくお願いします。

多田を強く抱きしめる、片山。多田はその背に手を回す。
固く抱き合う、二人。

【29】教室の二人

ノートを読み終えた、八木。
藤井は机に顔を伏せている。

八木 ……読んだよ。
藤井 ……
八木 藤井。

感想を聞きたいが、聞きたくない。顔を上げることができない、藤井。

八木 ……いくら？
藤井 ……知らない。
八木 遠慮すんなよ。
藤井 もらえないよ、こんなんので…
八木 面白かったよ。
藤井 ……うそ。
八木 まじ。
藤井 ……
八木 ちょっと短かったけど。
藤井 ……
八木 まあ、時間なかったし。

藤井 ……

八木 今後に期待。

藤井 ……今後とか……

すすり泣く、藤井。その声は次第に激しさを増していく。

八木 ……泣くなよ。

藤井 ……もっと、書いておけばよかった。

八木 ……

藤井 書きたいこと、半分も書けてない。勢いだけ。時間ないから、仕方ない……そんなこと、言いたくない。ちゃんと書きたい。ちゃんと書きたかった！ こんなことになるなら……言い訳しないで、やっておけばよかった。

八木 うん……

藤井 ……死にたくない。

八木 藤井。

藤井 死にたくないよ。

八木 ……今さら。

藤井 (絶るように) 八木さん。

八木 今さら、そんなこと言うなよ……

こらえきれず、涙をこぼす、八木。

八木 ……うちだって、死にたくないよ。

藤井 八木さん。

抱き合う、藤井と八木。

八木 死にたくない。
藤井 死にたくないよ。

声を上げて、子どものように泣きわめく、二人。

【30】繋がる二人

キスしようと、多田に顔を近づける、片山。

多田 ……待って。

片山 だめ？

多田 だめ、じゃないけど……臭いから。

片山 俺は気にしない。

多田 私は気になる。

片山 なんで。

多田 だって……これが最後でしょ。

片山 そう、だから……

多田 だったら、キレイに終わりたい……

片山 ……どうすれば？

多田 ……歯磨き？

片山 いまから？

多田 せめて、お水かなんか……

片山 ……持つてる？

多田 ……置いてきちゃった。

片山 ……

多田 ……片山くん？

多田に無理やりキスする、片山。

多田 (抵抗し) んー！

片山 (唇を離し) ……そんなの関係ねえ！

多田 なん……

片山 好きだ！

噛みちぎらんばかりの勢いで唇にかぶりつく、片山。

多田 んー！

片山 (唇を離し) 好きだー！

何度も告白しては、何度もキスする、片山。

次第に受け入れていく、多田。

二人の行為は発展していく。

【31】川辺の二人

マッサージを終える、堂本。足立は大きく伸びをする。

足立 ありがと、軽くなった。

堂本 ああ。

足立 もうすぐだねー。

堂本 そうな。

足立 どうなるかなー。
堂本 ……楽しんでない？
足立 ちよっとね。こんなの初めてだし。
堂本 最初で、最期なんだけど……

空を見上げ、隕石を待ち受ける、足立と堂本。
その時、水面が大きな音を立てる。

足立 ……なんか跳ねた？
堂本 さあ……

二人の視線の先、川の中ほどで、大きな魚が跳ね回る。

足立 えっ、こわ！
堂本 あれって……
足立 魚!?

驚いて堂本に縋りつく、足立。
目を見張って魚を凝視する、堂本。

足立 デカイ、デカイ！ なに、あれ!?
堂本 ……カーマインレッド。 赤！ 真っ赤!!
足立 なにあれ、なんの魚!?
堂本 金魚。
足立 は!?

堂本 生きてたのか……
足立 なに言ってるの？

跳ね回る巨大魚は、その数を増やし、水面を激しく鳴らす。
川面を呆然と見つめる、足立。

足立 うーわ……めっちゃ、いっぱいいる……

堂本 (笑って) 繁殖してる……

足立 (笑って) キモー。

笑いが止まらなくなる、堂本。つられて、足立も笑う。

藤井と八木の泣き声、堂本と足立の笑い声が重なる、混沌。
それを背景に、お互いを貪り合う、片山と多田。

隕石が、まさに衝突しようと近づいてくる。

轟音、閃光。

それぞれがそばにいる者と支え合い、その光を見つめる。